



うさみこ通信

NO.19

H21.8.20発行

7月例会報告

(2009年7月25日 平田高等学校 参加者15名)

1. 北海道大会準備

島根支部が担当する屋台ナイター「レイアウト&ちょこっとモノ作り」の準備として、おみやげ用のしおり作りや、うさみこポストカードの印刷をしました。



色紙やクラフトパンチを使って…しおりを作りました！ うさみこバックナンバー&うさみこポストカードを印刷。

2. 学校図書館パワーアップ事業について

今年度から始まった、小中学校を対象とした「学校図書館パワーアップ事業」について、漆谷さんから説明がありました。(※詳細後記)

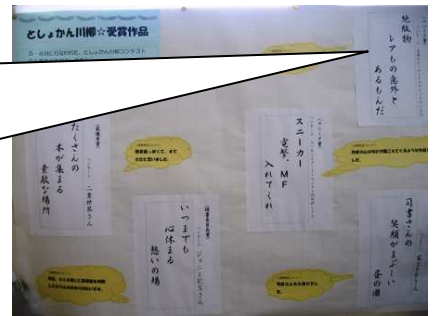
会場校紹介～平田高校は、こんな所でした！



日食にちなんで、天体本コーナーが！

（ユニーク書）
「ユニーク」主義のレトロブックデザイナー
絶版物
レアもの意外と
あるもんだ

そう、それが図書館だ。



生徒が投稿した図書館川柳。スルドイ！



可愛いディスプレイがあちらこちらに…。
「今日はどの本を読もうかな？」見ているだけでワクワクします♪



浅倉さん、ありがとうございました！

学校図書館パワーアップ事業について

○県教委が指定した小中学校の図書館の整備をする

- ・「人が集まる図書館・使いやすい図書館・本が生きる図書館」という視点を取り入れる
- ・1校あたりの経費：50万円 ← 研修費・環境整備費・消耗品費など（図書費ではない）

○1年間に15校×3年間（平成21年度～23年度）＝計45校を指定

- ・推進校の要件

}	①学校図書館の整備を必要としており、市町村教委が推薦している
	② <u>全教職員および司書の協同</u> のもとで学校図書館の整備を行う
	③専門家（＝司書）のアドバイスによって学校図書館の整備を進める

○県が指定した学校（※）において、整備の様子を撮影してDVDに保存し、他校の整備の参考にする

※ 安来市立第二中学校・大田市立久手小学校・浜田市立弥栄中学校・邑南町立石見東小学校
（詳細は学図研ニュースの報告をご覧ください。）

↓ 学校図書館パワーアップ事業にアドバイザーとして参加したみなさんからのレポートです！ ↓

7月23日、夏休みに入って間もない大田市立五十猛小学校に、漆谷さんと私がアドバイザーとして訪問しました。管理職をはじめ先生方、そして学校司書の梅枝（うめがえ）さんの「子どもたちにいい図書館を！」というアツイ姿勢にとっても感動しました。

その日は新しく図書館として利用する多目的ホールに書架を搬入する作業が主となりました。書架の斜め置きや、動線の確保など、五十猛の方々にはとっても新鮮に映ったようです。

作業や協議をする中、梅枝さんからの相談がたくさんあり、普段分からないことや困ったことを相談する窓口がなくて困っているということがよくわかりました。私たちとしては当たり前なことでも、そうではない、ということは様々な場面であるだろうと容易に想像できます。他の学校でも同じような状況でしょう。

今後も五十猛小学校に関わっていく予定ですが、五十猛小のみならず、新しく司書が入った学校、司書がない学校にもっと関わることができたらなあ、との思いも強くもった日でもありました。（行武 望）

県西部地域の3小学校に出かけました。この事業では書架などの既製品を購入することができないので、既存の家具に畳などを加えてどのように全体をレイアウトしていくのか判断が難しく、適切なアドバイスができたかどうかは残念ながら疑問です。

ただ、3校とも、学校司書等が配置された1学期から、既に管理職含め先生方も一緒になって図書館の環境改善に取り組んでおられ、この事業でさらに学校のビジョンを確認し、全教職員で図書館を作っていく結束力が高められたように思います。

学校図書館に限らないでしょうが、みんなで運営していく体制づくりができると生き生きした組織になるのだなと改めて実感する貴重な経験になりました。（渡部まり子）

7月末、漆谷さん・高橋さんと一緒に、安来二中を訪問しました。校長先生、司書教諭の先生、学校司書の米原さん、そして市教委の担当者の方と共に、図書館改造計画を話し合いました。

元は教室だったという図書館には、黒板や生徒用ロッカー（書架として使用）があり、空間を狭くしてしまっていました。また、椅子の数が少なく、一クラスの全員が図書館で授業を受けることは出来ません。このような限られた環境・資源の中で、この図書館をどう改造するか、先生方と相談しながら案を練りました。さまざまなビジョンが浮かんでくるのですが、いざ実行するととなると、やはり物質的な問題が立ちはだかります。課題は山積ですが、先生方、特に米原さんの熱意にこちらも勇気づけられました。また、市教委の方が前向きな姿勢を示して下さいだったので、心強い限りです。

司書2年目の私にできるアドバイスはわずかですが、今まで先輩方から教えていただいたことをみんなで共有していければと思います。今後、二中がどう変わっていくのか楽しみです。（梶谷 妙）

★パワーアップ事業の報告は、メーリングリスト(ML)でも公開されています(パワーアップ事業に参加された方は、ぜひMLでの報告もお願いします！)。ML未登録の方には、報告を送付いたします。

北海道大会報告 (2009年8月3日～5日 シャトレーゼガトーキングダムサッポロ)

○3日

- ・総会（「私たちの課題」提案）
- ・講演「戦う動物園」小菅正夫氏（旭川市旭山動物園名誉園長）
- ・ナイター（A:北海道のお話の部屋 B:学図研入門講座（アROUND 60に訊く結成当時のこと） C:「本の味見」をしてみよう！—ちょい読みで本との出会いを！ D:本の話をしようよ～自然科学に強くなろう～ E:おすすめ BOOK カレンダーを作ろう！ F:利用案内大見本市 G:恵庭市の学校図書館に人が入って 屋台ナイター）



★屋台ナイター「レイアウト&ちょこっとモノ作り」では、お客さんにしおり作りや切り紙を体験してもらいました。参加者には、7月例会で作ったしおりをプレゼントしました。
また、7月例会で選んだ学校のレイアウト図を掲示し、意見を書いた付箋を貼ってもらいました。



○4日

- ・実践報告1 「本を楽しむ子どもたち ～特別支援学校の場合～」庄山美喜子さん（熊本）
- ・実践報告2 「『学校図書館とは』を問いつづけて」高橋恵美子さん（神奈川）
- ・分科会（①学校図書館と特別支援教育 ②考えてみよう、学校図書館&学校司書 ③LibraryNAVI を作ろう、語ろう ④授業支援について—働きかけと準備のコツ— ⑤司書と教師の協働—図書館の機能を活かした授業実践とは ⑥もっと知ろう！本のこと ⑦授業に活かそう！ブックトーク ⑧アイヌ民族の歴史と文学を語る）
- ・全体交流会
- ・各県企画（島根支部も各県企画を担当しました。）

○5日

- ・全体会
- ・分科会報告
- ・総会（「私たちの課題」討論・採決、東京大会予告など）

（詳細は学図研ニュースの報告をご覧ください。）

☆★みなさんのご意見・ご感想をお聞かせください！★★☆

北海道大会の準備に参加された皆さん、および北海道大会に参加された皆さんから、準備および大会に関するご意見・ご感想をお寄せいただきたいと思います。

また、支部会員の皆さんから、2010年東京大会へ向けての意見をお寄せいただきたいと思います。
ぜひ、ご協力をお願いいたします。

本の紹介 ～7月例会にて、漆谷さんよりご紹介いただきました～

『学校図書館ビフォー・アフター物語 図書館活用教育の全国展開を願って』

五十嵐絹子・編著 国土社(2009)

☆レイアウトの改造など、図書館の大改革の実践例を紹介。

第2章「中学校図書館の挑戦」に、東出雲中学校の実重さんも寄稿していらっしゃいます。

8月入会者

↓6月6日に行われた学図研・山陰ブロック集会について、浅倉さんがレポートしてくださいました！↓

山陰ブロック集会に参加して

浅倉 薫

講演では始めに、今の経済状況の中で図書館や司書の置かれた立場についてお話がありました。県の財政が厳しいことはもちろん知ってはいたのですが、私は学校司書としてこれまで働いてきて、それを実感したり意識したりすることはありませんでした。また、一般的な行政職ではない私は、県財政をそれほど気にする必要はないだろうというのが以前の私の正直な思いでした。そんな私にとって、齋藤明彦さん(鳥取県自治研修所所長・「子どもの読書サポーターズ会議」委員・元鳥取県立図書館長)のお話は、まるで「目を覚ませ！しっかりしろ！」と肩をつかんで揺さぶってくるような衝撃的なものでした。

講演のなかで私が特に印象深く感じたのは、「福祉をとるか、図書館をとるかと言われた時に、どちらも大切と言ってくれる利用者(県民)をもっていなければ図書館は生き残れない」という齋藤さんの言葉です。これを聞いて私はハッとしました。自分の仕事を振り返ってみると、一生懸命やっているつもりになっているだけで甘い点がたくさんありました。うちの図書館・私は、どのような状況のなかでも欠くのとはできない大切な存在として利用者に認識してもらえていると言える日が早く来るように、冷静に自分の仕事を振り返る力や利用者ニーズに十分応えられる力を身につけなくてはと思いました。

講演では、今の経済状況や社会構造に合わせて図書館も生まれ変わっていかなければならないことや、常に先取りのサービスをすることなど大切なことをたくさん教わりました。その中で、私は今、齋藤さんが講演中に何度かおっしゃっていた「図書館外へのアピール」を意識して仕事をしています。1学期中は、齋藤さんが教えてくださった外部提供資料を書く時の工夫を真似させてもらいました。本校では学期末に貸出し冊数の報告をしていたのですが、今回は齋藤さんに教えていただいた工夫に習って、貸出1000冊を超えた時点で間髪入れず貸出冊数を報告しました。すると、驚いたことにさっそく校長から生徒の利用状況についての問い合わせがありました。齋藤さんがおっしゃった、外部へのアピールには情報の新鮮さが重要になってくるということをも身を持って実感したできごとでした。

講演後、胸の中で渦巻いていた不安や、焦りや、自分への不甲斐なさといった感情は、今も私を大きな課題の海の中でもがいているような気持ちにさせます。自分のできていないところ、これからしていかなければいけないことはたくさんありますが、今日のこの仕事が図書館・司書の将来をつくり、同時にその図書館を支える利用者をつくるのだということを心において、一つひとつ実践を積み重ねていきたいと思っています。

☆浅倉さん、ありがとうございました！

読んぢよる

担当：飯島久美子

動物図鑑・植物図鑑は学校にもあると思いますが禁帯出だったり、貸出可でも「でかくて、借りる気になれん！」という本が多いと思います。今回は読み物としても楽しめ、本を持って出かけたくなる図鑑を紹介します。テーマは、「夏休みにおすすめの、生き物図鑑」！

『日本の生きもの図鑑』 石戸忠/今泉忠明・監修 講談社 (2001)

この本が「いいなあ～」と思ったのは、動物と植物を「街」「里」「山」「水辺」「海」に分け、見られるフィールドごとに収録しているところです。また、牧野富太郎ばりのきれいな絵で、眺めるだけでも楽しいです。小さいながらも700種の動植物が載っているこの本、2001年の発行でありながら、昨年16刷を発行したロングセラー。「プレゼントに最適！」という帯の言葉もうなずけます。それぞれの説明文は短いですが、例えばカケスの説明に「ドングリが大好きで地中にうめるが、そのまま忘れてしまううっかり者。」と、おカタイ図鑑には載っていないような情報も。すべてふりがな付き、英語の名前付きで、子どもから大人まで楽しめると思います。

こちらは動植物を二十四節気に分け、写真と文章で紹介しています。二十四節気の説明と、その季節を代表する動植物についてのエッセイも楽しめます。処暑（8月23日～9月6日）の説明には「旧暦の七月七日はこの頃で、すっきりと晴れた満点の星空に天の川が輝きます。（中略）天の川を渡る小舟がふたりを結びます。旧暦七日の月は上弦の月なので、その半円の形を、小舟に見立てたのだといわれています。」と、何ともロマンチックな説明が書かれています。

☆飯島さん、ありがとうございました！

次回例会 2009年 8月 29日（土） 13:30～16:00

場所 出雲高等学校図書館

内容 ① 北海道大会報告

 ② 図書館のレイアウトについて

8月例会は
午後からです！

☆☆☆**出欠**を、8月26日（水）までにお知らせ下さい！！☆☆☆

～編集長より～

もうすぐ夏休みが終わりますね。最近、新学期に向けて「あれもしなきゃ！これもしなきゃ！」と思っているうちに、あっという間に一日が終わってしまいます…。気がつけば始業式が目前に！新学期が始まるのが半分憂鬱、そして半分楽しみです。体調に気をつけて、笑顔で新学期を迎えたいものですね。

編集長 梶谷妙